

田代宗雄 (タシロ ムネオ)

株式会社ウェッジホールディングス社長



投資育成事業を成長領域と位置付け 事業拡大を図る

◆ウェッジホールディングスグループの概況

(株)ウェッジホールディングスグループの概況について述べると、(株)スピニング、(株)ラディクスモバニメーション、(株)エースデュースはコンテンツ事業、(株)エンジンは物販事業ならびに投資育成事業を、Engine Holdings Asia PTEは投資育成事業を行っている。当社本体は各事業に加え、各社に対する経営インフラの提供、事業支援を行っている。

各セグメントの状況については、コンテンツ事業に関してはトレーディングカードゲーム事業の収益が大きな支えとなっている。他メーカーのブランドのため、今まではカードゲームの企画・制作を行っている当社の名前を出すことはできなかったが、従来の実績を認められ、今期の新作では商品名を紹介できることになった。編集・出版事業としては、エンターテインメント領域の編集プロダクション・出版を行っている。映画・映像・音楽関連事業としては、小規模作品を中心とした映画・映像製作、DVDパッケージなどの流通、海外アーティストの国内プロデュース、CDパッケージなどの流通を行っている。一方、アニメーション事業、タレント事業は縮小する方針で、現時点での規模は非常に小さくなっている。

物販事業に関しては、小売事業として海外キャラクター玩具を中心とした原宿の店舗「プリスター」の運営のほか、ネットでの販売も行っている。卸売事業では、海外トイメーカー数社の国内正規代理店として各小売店に卸す事業を展開している。「たのみこむ」事業では、Web上でのサービスを提供しているが、昨年からの試みとして、OEM事業にも力を入れている。残念ながら昨年は採算が悪かったが、事業体制を変えて現在は回復基調にある。

投資育成事業に関しては、タイ国内でバイクリース事業を行っているGroup Lease PCLに投資している。また、規模はそれほど大きくないが短期の投融資などを行っている。当社は上場直後からコンテンツに対する投資組合を組成し運営しているが、現在はそのほかの領域にも投資を拡大している。

◆2009年9月期第2四半期累計の経営成績

2009年9月期第2四半期の業績については、売上高は9億1百万円（前年同期比7.8%減）、営業損失は43百万円、経常利益は29百万円（同61.1%増）、四半期純利益は8百万円（同33.3%減）となった。例年、第2四半期はクリスマス商戦などが終わった後の端境期に当たる事業が多くあまり成果が上がらないが、当期は思った以上に状況がよくなかった。

各セグメントの状況については、物販事業に関しては、営業利益はマイナス35百万円となったが、第2四半期は毎年利益が出ない時期なので元々の予算が赤字である。「たのみこむ」事業はOEM事業が軌道に乗り比較的健闘したが、まだまだ評価できる結果ではない。

コンテンツ事業に関しては、主力のカードゲーム事業は好調だったが、アニメ・DVD・CDパッケージ関連の収益が非常に悪く、営業損失は21百万円となった。

それらを支えたのが投資育成事業である。売上高の割合は小さいが、Group Lease PCLの利益が着実に伸び、72百万円の持分法適用利益が上がっている。

そのほか、ラディクスモバニメーションが行っているアニメーション事業に関しては、3Dアニメーションの制作費用が顧客から支払われなかったために昨年8月から係争を続けている。訴訟自体は順調であるが、残念ながら営業上はいいインパクトを与えていない。また、アニメーション制作事業は厳しい環境が続くと判断し、上期に事業体制の大幅な縮小を断行した。収益が見込めないと判断した3Dアニメーション制作事業の資産を中心に、設備等約21百万円の特別損失を計上している。

エースデュースが行っているタレント事業に関しては、収益が安定しないために昨年からテコ入れを行ってきたが、現時点では難しいと判断し事業体制を刷新した。また、事業所を3カ所から1カ所に集約し、映画・映像関係事業も含めて全体の固定費圧縮を行った。

スピニングが行っている音楽事業に関しては、事業所を本社内へ集約し固定費を圧縮した。

グループの資本政策と基盤整備については、当社の資本増強として、本年3月に筆頭株主であるAPFグループをはじめとする4社を割当先として新株発行による第三者割当増資を実施し、総額約8億40百万円の資本を調達した。これにより財務の改善と投資拡大に対する原資を確保し、自己資本比率は62.6%となった。払い込み完了後もAPFグループが筆頭株主となり、役員の異動もなく支配権に変更はない。

本年2月には、シンガポールに投資法人Engine Holdings Asia PTEを設立し、その後、資本を大幅に増強した。増資払込後資本金は約3億円で、当社の特定子会社という扱いである。

本年3月には、持分法適用会社Group Lease PCLの株式を追加取得し、当社グループが48.6%の株式を保有する筆頭株主となった。当社からは2名の社外役員を派遣し、グループとしての連携を強化していく。上期の収益には寄与していないが、長期保有を通じた配当および投資利益の継続的な獲得を期待している。

◆グループ各社の主要トピックス

(1) ウェッジホールディングス

収益の柱であるカードゲーム事業は堅調に推移している。基本的にトレーディングカードゲームは3カ月に1回新しいシリーズが出るが、ヒットタイトルはファンが繰り返し買うことになるので安定的な収益となる。

当期からはデベロッパーとして(株)ブシロードに制作協力し、新作カードゲーム2作品を発表した。また、イベント等の運営にも協力し、カードゲームの流通、ファンの獲得などを積極的に推進している。

(2) エースデュース

主力の映画・映像作品の製作・流通が不調であったため、不採算のタレント事業縮小とともに固定費を圧縮し収益改善を図った。

また、映画・映像作品のDVDパッケージのリリースは増加したが、販売・レンタルなどの回収が期待に届かなかった。一方、既存の作品がどんどん増えているので、DVDをレンタル・セルに出した後に海外で映像権の販売を行うなど二次収入の営業を強化し、パッケージ販売・レンタル収入への依存度を下げていく。

(3) エンジン

第2四半期は商品の生産拠点が集中する中国の旧正月に当たるために入荷が減り、物販事業は卸売・小売共に低調となるが、当期よりエンジンに移管された「たのみこむ」事業が独自の商品企画開発を展開し売上高を補った。商品に関しては、「北斗の拳『ジャギ・ヘルメット』」、「ビートたけし&所ジョージのアクションフィギュア」、「所さんのDAITAI時計」など、遊び心を持った商品を開発・販売している。

(4) Group Lease PCL

タイ国内のバイクリース事業が堅調で、2008年12月度最終利益は約5億50百万円（前期比約140%増）の好業績であった。現在、タイ国内のバイクリース市場で4位に付けている。バイクリースは車のリースと比べて収益性が高く、また車が売れなくなったこの1年の間もバイクはしっかり売れ続けており、効率のいい経営ができています。

当社はGroup Lease PCLの株式を49%保有しているが、この事業が継続的に連結での収益を支えてくれると期待している。

◆下期の施策と今後の見通し

下期の施策については、コンテンツ事業・物販事業は「守り」を固める時期になると考えている。前期拡大した作品投資は抑制し、事業環境の見極めを行っていく。また、固定費削減は一巡したので、収支管理を慎重に行いながら各事業での採算改善を図る。

一方、投資育成事業は成長領域と位置付け、「攻め」の姿勢で機会追求と支援体制の整備を進めていく。また、前期から続けてきたグループ内の事業部門に対する事業支援活動は縮小し、対外的な活動へ社内資源を移行する。今後は新たな投資先に対する事業支援機能の拡充を図り、事業支援に向けた人材の積極採用や支援システムの整備に注力していく。

2009年9月期通期の業績については、売上高は22億円（前期比2.9%増）、営業利益は60百万円（同3.2%減）、経常利益は2億60百万円（同78.1%増）、当期純利益は2億40百万円（同196.3%増）と見込んでいる。

上期の売上高未達と不採算事業の縮小を反映し、売上高は2億円、営業利益は40百万円の下方修正を行った。一方、Group Lease PCLの収益が安定し持分法適用利益が増加することを踏まえ、経常利益・当期純利益は10百万円の上方向修正を行った。

今回の増資により1株当たりの利益が若干希薄化しているが、最終的に成果を上げることによって昨年を上回る1株当たり利益を達成できると考えている。

株主還元策については、現時点では復配などの発表はできないが、先々の状況を見越して具体的な策を出していきたい。

(平成21年5月14日・東京)